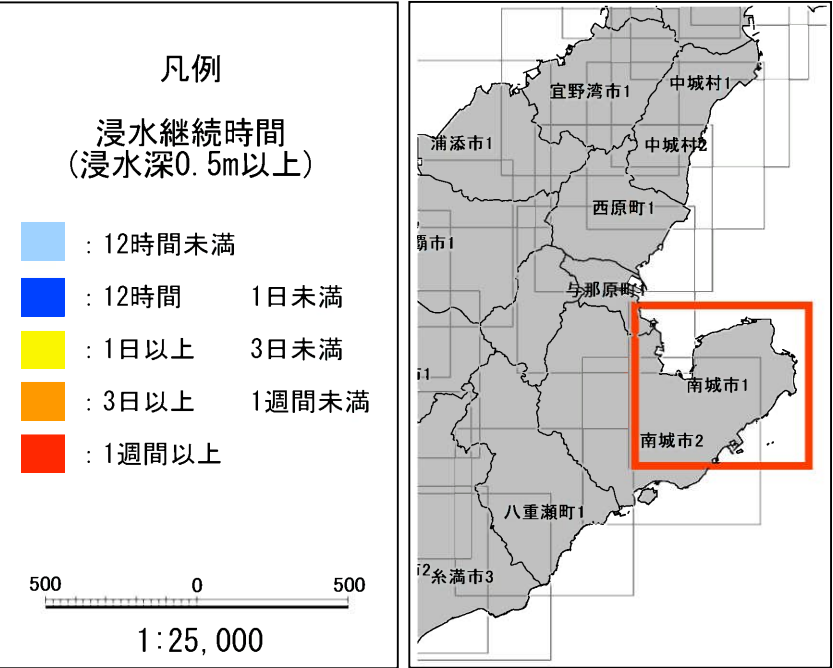
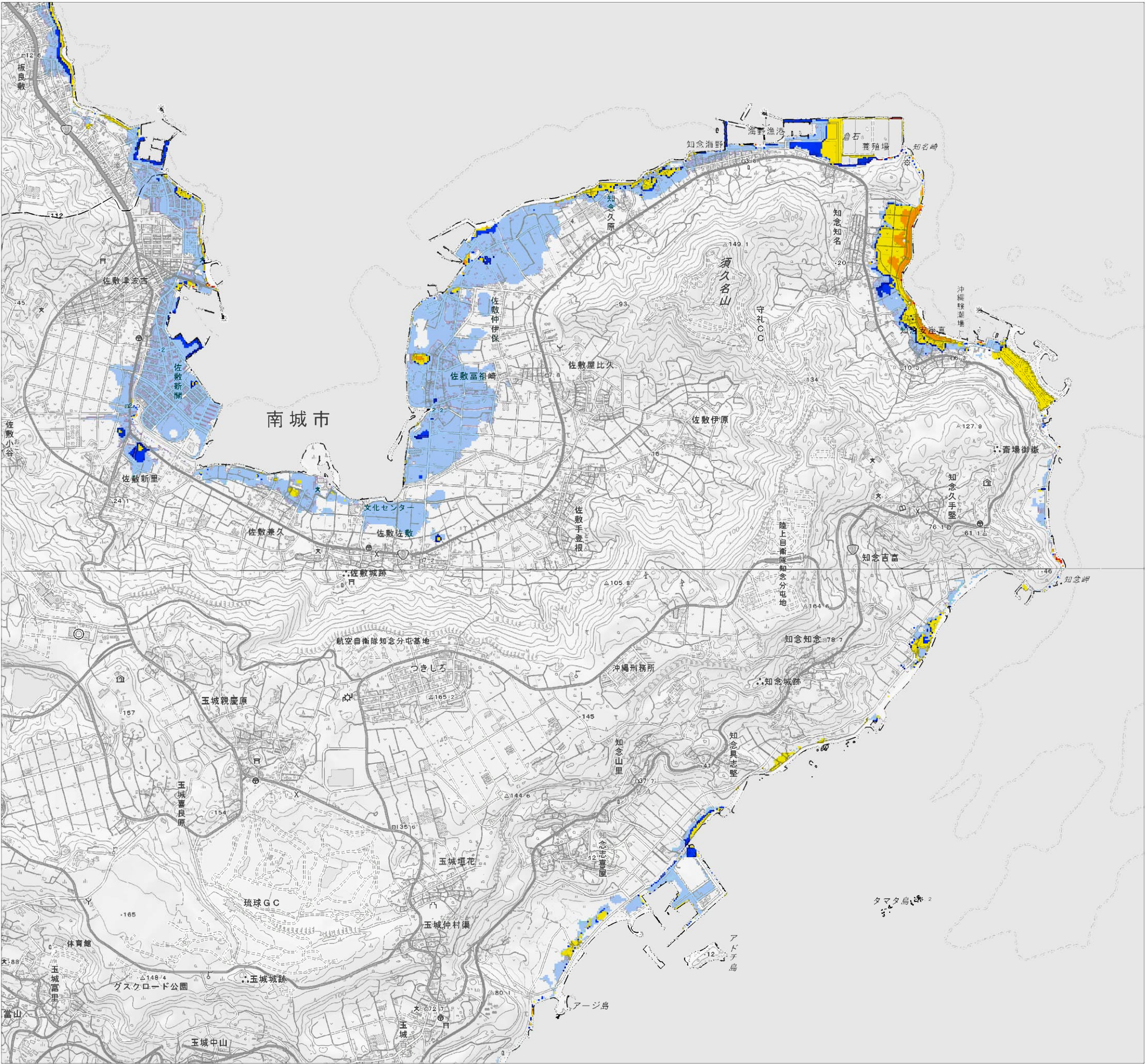




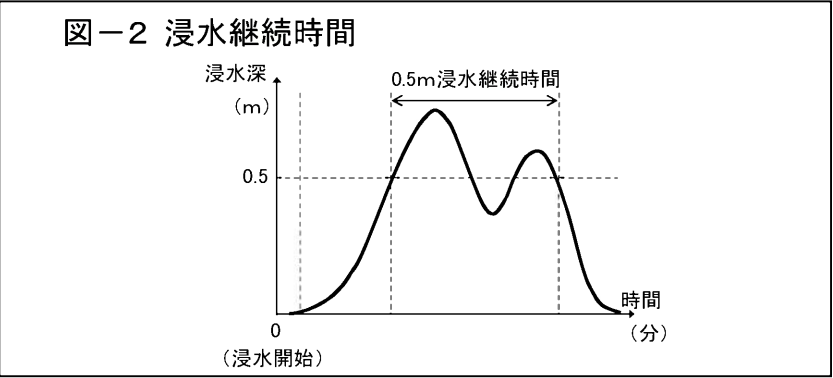
【留意事項】
高潮浸水想定区域図は、沖縄県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、沖縄県内において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間を表示した図面です。
浸水区域や浸水深、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。
なお、浸水深は、地盤の高さを基準にしています。
この図に関する詳細な説明は、「高潮浸水想定区域図について（解説書）」をご参照ください。
高潮浸水想定区域図をご覧になる際は、次の事項にご留意ください。

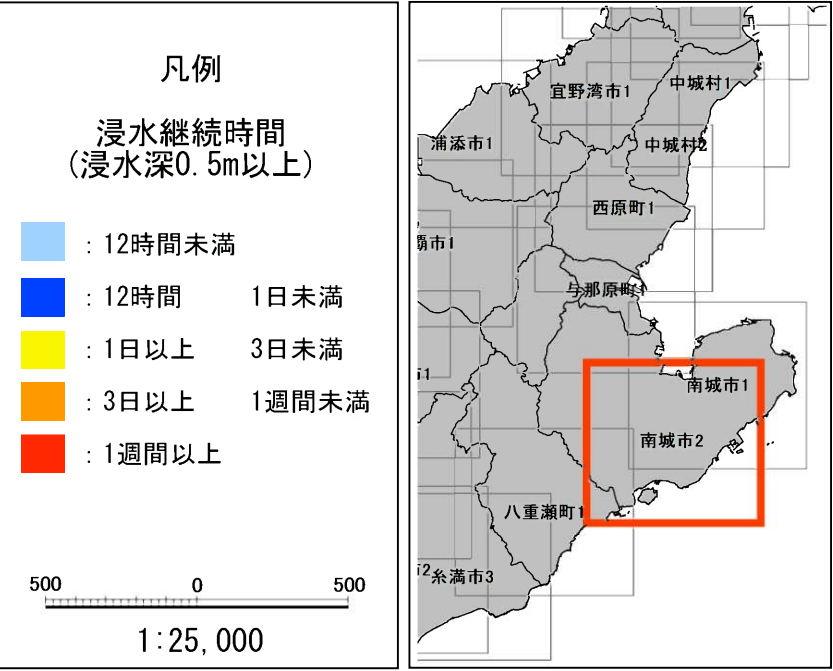
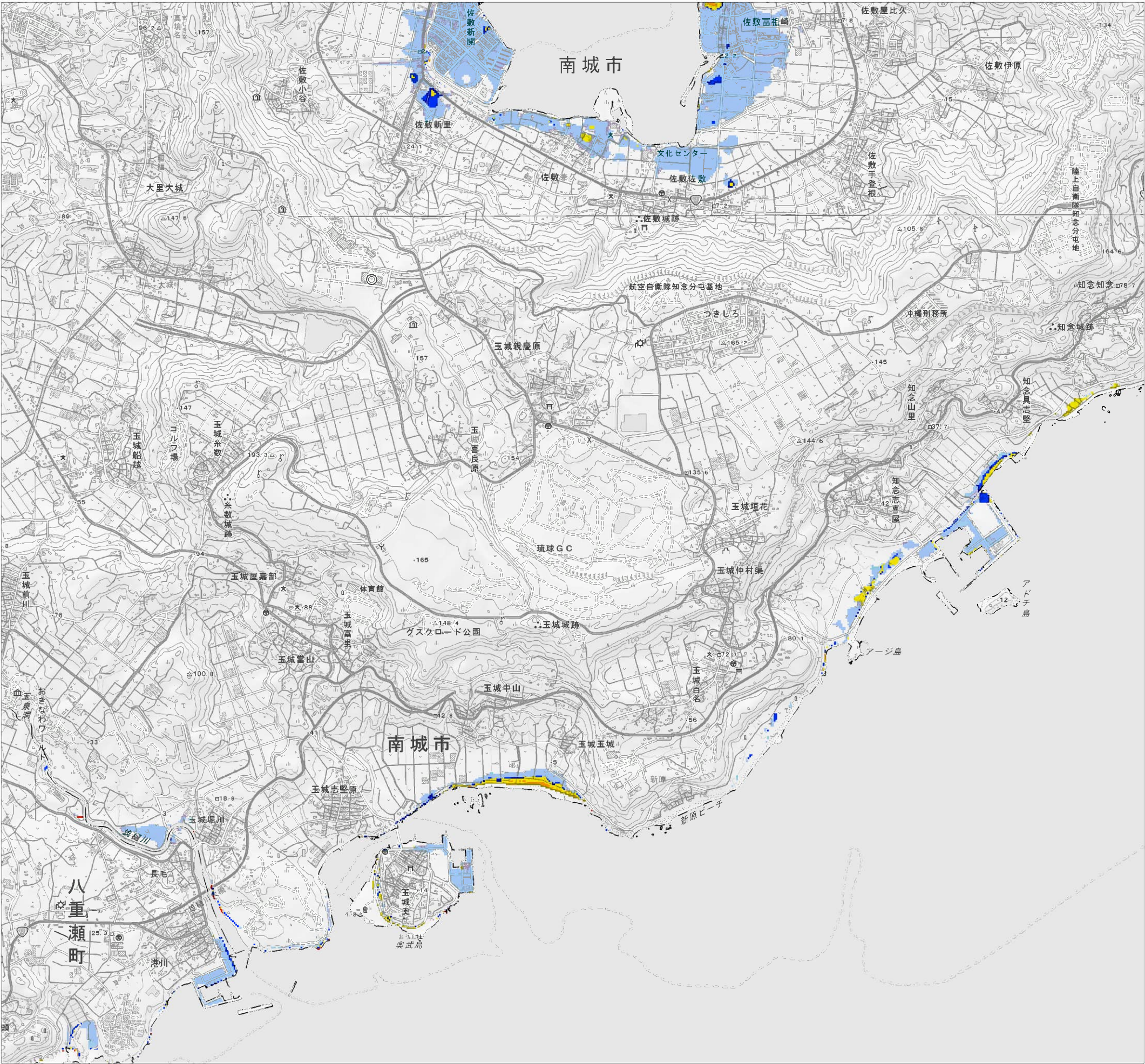
- 高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基準とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高波が卓越する複数の経路や移動速度を選定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせて最大の浸水継続時間が示されるようにしております。
- 最大クラスの高潮は、現在の科学的知見を基に、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
- 台風の接近・上陸時には、高潮のみならず、降雨も想定されることから、一部の二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と同時に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、想定していません。
- 海岸保全施設である堤防等は、決壊した場合と決壊しない場合の結果を包絡しています。
- 堤防等が決壊する場合は、最悪の事態を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で決壊するものとして扱っています。
- ・決壊後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。
- ・地震による海岸保全施設等の沈下や破壊などは想定していません。
- 高潮浸水シミュレーションで再現しきれない局所的な地盤の凹凸や建築物の影響、想定していない雨水出水（内水）などにより、浸水想定区域以外で浸水が発生したり、浸水継続時間が長くなる場合があります。
- 内水氾濫（側溝・下水道や排水路だけでは、降った雨を排水することができずに、浸水が発生する現象）は考慮していません。
- 湿地帯などでは平常時の満潮でも冠水が生じるため、定義上は浸水継続時間が長くなりますが、実態を踏まえ、浸水継続時間を台風接近期間に限定して設定している地域があります。
- 地形図は、主に令和3年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
- 地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通して浸水が広がることは考慮していません。
- 地盤高が期望平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
- 今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。
- 確実な避難のためには、気象庁が発表する防災気象情報や、各市町村が作成するハザードマップ、避難情報等を活用してください。

【用語の解説】

浸水継続時間 : 浸水深が50cmになってから50cmを下回るまでの時間です。ここで50cmは、高潮時に避難が困難となり孤立する可能性のある水深として設定しています。なお、一旦水が引いて50cmを下回った後、再び増水して50cmを上回った場合は、図-2のように最初に50cmを上回ってから最終的に50cmを下回るまでの通算時間としています。緊急的な排水対策等は考慮していませんので、目安としていることに留意してください。

期望平均満潮位 : 朔（新月）および望（満月）の日から前2日後4日以内に観測された最高満潮面を1年以上にわたって平均した高さです。

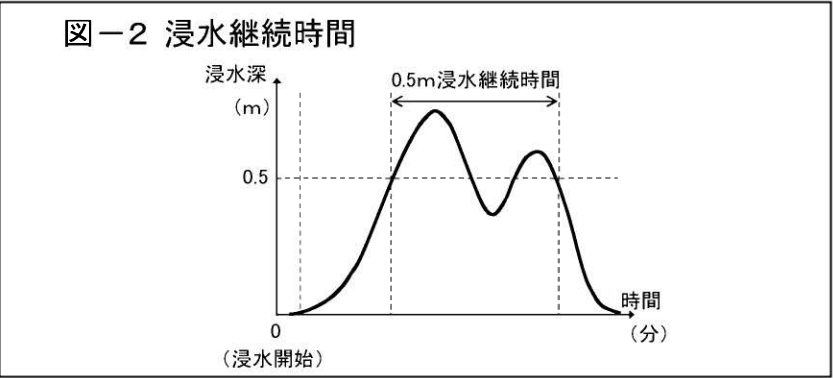


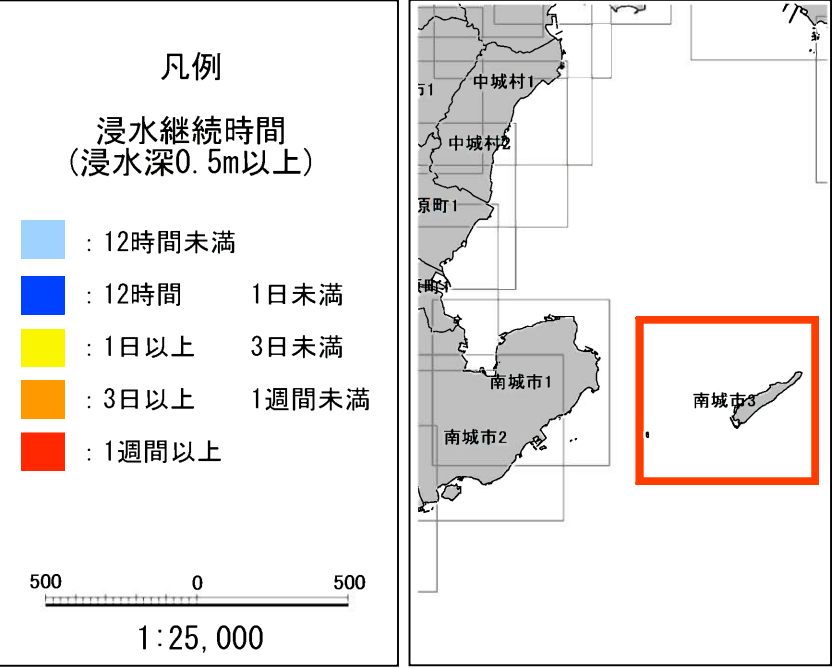
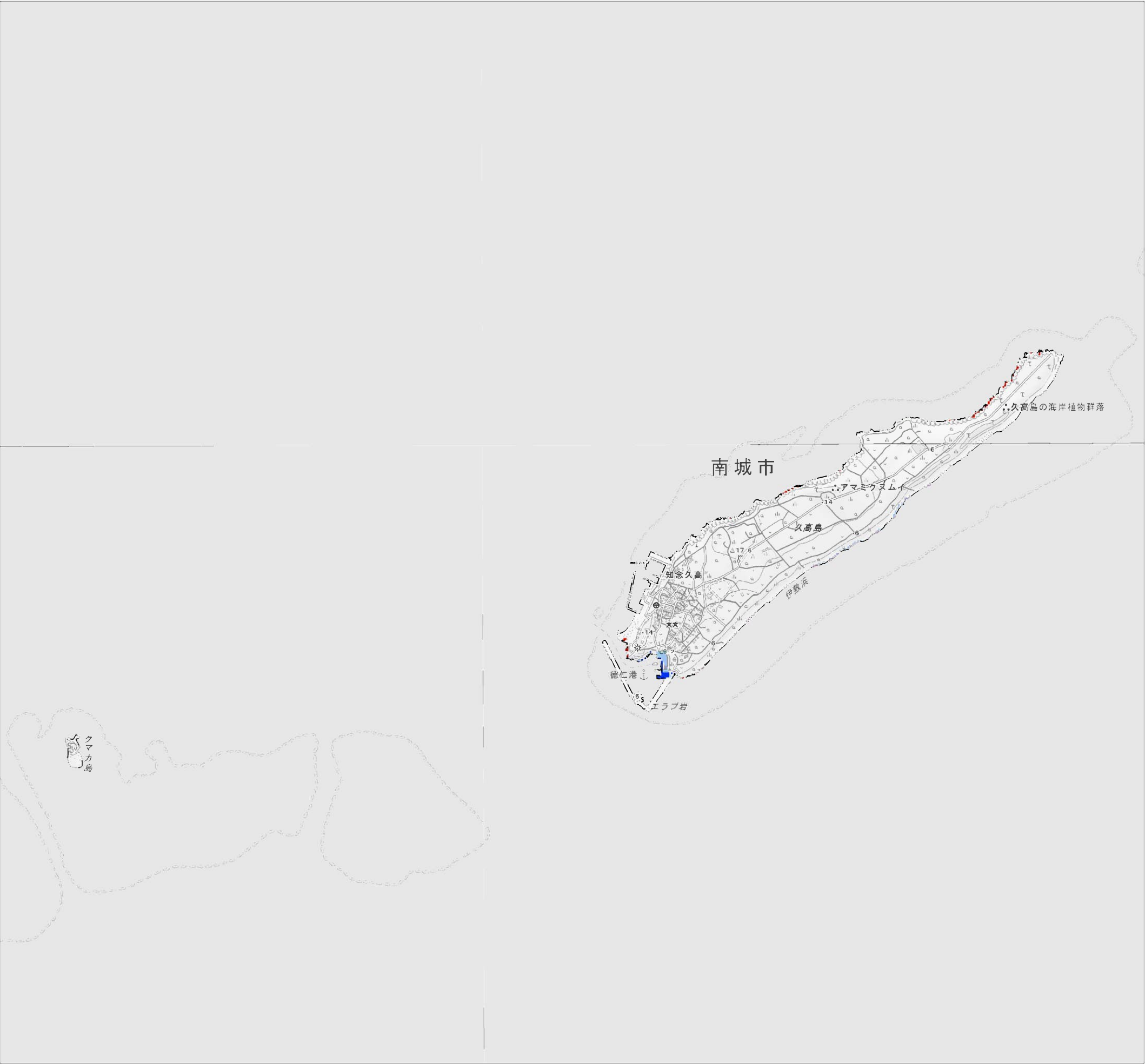


【留意事項】
高潮浸水想定区域図は、沖縄県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、沖縄県内において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間を表示した図面です。
浸水区域や浸水深、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。
なお、浸水深は、地盤の高さを基準にしています。
この図に関する詳細な説明は、「高潮浸水想定区域図について（解説書）」をご参照ください。
高潮浸水想定区域図をご覧になる際は、次の事項にご留意ください。

○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基準とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高波が卓越する複数の経路や移動速度を選定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせて最大の浸水継続時間が示されるようにしております。
○最大クラスの高潮は、現在の科学的知見を基に、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないものではありません。
○台風の接近・上陸時には、高潮のみならず、降雨も想定されることから、一部の二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と同時に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、想定していません。
○海岸保全施設である堤防等は、決壊した場合と決壊しない場合の結果を包絡しています。
○堤防等が決壊する場合は、最悪の事態を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で決壊するものとして扱っています。
・決壊後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。
・地震による海岸保全施設等の沈下や破壊などは想定していません。
○高潮浸水シミュレーションで再現しきれない局所的な地盤の凹凸や建築物の影響、想定していない雨水出水（内水）などにより、浸水想定区域以外で浸水が発生したり、浸水継続時間が長くなる場合があります。
○内水氾濫（側溝・下水道や排水路だけでは、降った雨を排水することができずに、浸水が発生する現象）は考慮していません。
○湿地帯などでは平常時の満潮でも冠水が生じるため、定義上は浸水継続時間が長くなりますが、実態を踏まえ、浸水継続時間を台風接近期間に限定して設定している地域があります。
○地形図は、主に令和3年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通して浸水が広がることは考慮していません。
○地盤高が期望平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。
○確実な避難のためには、気象庁が発表する防災気象情報や、各市町村が作成するハザードマップ、避難情報等を活用してください。

【用語の解説】
浸水継続時間：浸水深が50cmになってから50cmを下回るまでの時間です。ここで50cmは、高潮時に避難が困難となり孤立する可能性のある水深として設定しています。なお、一旦水が引いて50cmを下回った後、再び増水して50cmを上回った場合は、図-2のように最初に50cmを上回ってから最終的に50cmを下回るまでの通算時間としています。緊急的な排水対策等は考慮していませんので、目安としていることに留意してください。
期望平均満潮位：朔（新月）および望（満月）の日から前2日後4日以内に観測された最高満潮面を1年以上にわたって平均した高さです。





【留意事項】
高潮浸水想定区域図は、沖縄県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、沖縄県内において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間を表示した図面です。
浸水区域や浸水深、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。
なお、浸水深は、地盤の高さを基準にしています。
この図に関する詳細な説明は、「高潮浸水想定区域図について（解説書）」をご参照ください。
高潮浸水想定区域図をご覧になる際は、次の事項にご留意ください。

○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基準とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高波が卓越する複数の経路や移動速度を選定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせて最大の浸水継続時間が示されるようにしております。
○最大クラスの高潮は、現在の科学的知見を基に、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
○台風の接近・上陸時には、高潮のみならず、降雨も想定されることから、一部の二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と同時に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、想定していません。
○海岸保全施設である堤防等は、決壊した場合と決壊しない場合の結果を包絡しています。
○堤防等が決壊する場合は、最悪の事態を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で決壊するものとして扱っています。
・決壊後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。
・地震による海岸保全施設等の沈下や破壊などは想定していません。
○高潮浸水シミュレーションで再現しきれない局所的な地盤の凹凸や建築物の影響、想定していない雨水出水（内水）などにより、浸水想定区域以外で浸水が発生したり、浸水継続時間が長くなる場合があります。
○内水氾濫（側溝、下水道や排水路だけでは、降った雨を排水することができずに、浸水が発生する現象）は考慮していません。
○湿地帯などでは平常時の満潮でも冠水が生じるため、定義上は浸水継続時間が長くなりますが、実態を踏まえ、浸水継続時間を台風接近期間に限定して設定している地域があります。
○地形図は、主に令和3年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通じて浸水が広がることは考慮していません。
○地盤高が期望平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。
○確実な避難のためには、気象庁が発表する防災気象情報や、各市町村が作成するハザードマップ、避難情報等を活用してください。

【用語の解説】

浸水継続時間：浸水深が50cmになってから50cmを下回るまでの時間です。ここで50cmは、高潮時に避難が困難となり孤立する可能性のある水深として設定しています。なお、一旦水が引いて50cmを下回った後、再び増水して50cmを上回った場合は、図－2のように最初に50cmを上回ってから最終的に50cmを下回るまでの通算時間としています。緊急的な排水対策等は考慮していないので、目安としていることに留意してください。

期望平均満潮位：朔（新月）および望（満月）の日から前2日後4日以内に観測された最高満潮面を1年以上にわたって平均した高さです。

図－2 浸水継続時間

